

《月月小説》掲載の翻訳小説の原作

渡辺浩司

1. はじめに

《月月小説》は、周知の如く、晩清期の光緒三十二年九月(1906年11月)に上海で発刊した小説雑誌で、24号分を出し停刊した。小説雑誌としては初期のものなので、重要視されており、その証として、中国だけではなく、日本でも影印が出版されている。

呉趼人や周桂笙が執筆者に名を連ね、創作小説以外に、翻訳小説も数多く掲載された。翻訳の中には、いまだに原作不明の作品があり、本稿ではそのうちの2作品の原作を報告する。

2. 《科學小説 新再生縁》の原作

《科學小説 新再生縁》は、《月月小説》第四(1907.1.28)、第五(1907.2)号に掲載された*1。冒頭に書名の次に「英國海立福醫士筆記」「中國 / 張勉旃 / 陳无我 / 同譯」とある。

まず、訳者の「張勉旃」については、未詳。「陳无我」は、《中国近現代人物名号大辞典》(陳玉堂編著, 浙江古籍出版社1993.5) 526頁によると、陳輔相のことで、生卒年未詳、浙江杭県の人、《満麗女郎》という著作、《死椅》という共訳がある*2。

この《科學小説 新再生縁》の原作は、L. T. Meade and Clifford Halifax著『STORIES FROM THE DIARY OF A DOCTOR』(Newnes1894未見、J. B. Lippincott Company1895の影印(Arno Press Inc.1976)を使用)の中の「I. My First Patient」(初出『The Strand Magazine』1893年7月*3)である。

該書は、12篇からなる短篇集で、原作者の一人のHalifaxがそのまま主人公で登場



《科學小説 新再生緣》

する。中国語訳冒頭の「海立福」はこのHalifaxの訳である*4。

原作者について、Clifford Halifaxは、経歴未詳だが、扉頁に「M.D.」とあるので、実際に医者だったのであろう。L. T. Meadeは、本名Elizabeth Thomasina Meade、アイルランド・コーク州生まれの作家、1844年生まれ、1914年没、共著を含め、様々なジャンルに渡る270以上の著作がある*5。

主人公Halifaxの語りで進められる「I. My First Patient」のあらすじを以下に紹介する。

私(Halifax)は、友人で外科医のJohn Rayから依頼を受け、彼の知人でやはり医者
のOgilvieの応援に向かう。SaltmarshのOgilvie家に着くが、Dr. Ogilvieは外出中で、
彼の友人のDr. Roperに迎えらる。Roperの話では、Ogilvie夫人が塞栓症で重体
とのことであった。だが、私が診察すると、アヘンの多量摂取による重体であった。
Roperから治療を引き継ぎ、毒分を吸収し、夫人は意識を取り戻す。

その時、Ogilvieの馬だけが屋敷に戻ってくる。心配した使用人達とRoperは捜索
に出かける。続いて、一人の女性がやって来て、Ogilvieに面会を求め、居座る。

Roper達が冷たくなっているOgilvieを運んで帰ってくる。Roperに宛てた遺書が
あり、それによると、Dr. Ogilvieは以前、オーストラリアに住み、そこで結婚し

ていた。その女性が亡くなったので、イギリスに戻り、今の夫人と結婚し、幸せに暮らしていた。ところが、2日前に先妻の母が現れ、実は先妻は亡くなっていないと言う。そして、今の夫人の地位を先妻に譲るよう要求し、拒否すれば重婚罪で告発すると脅迫してきた。進退窮まったOgilvieは、オーストラリアから持ち帰った毒薬をまず夫人に飲ませ、それから自らも服用し、無理心中を図ったのだった。

Ogilvieが運び込まれたドタバタの中、先妻の母は、要求の内容は嘘で、実際は先妻はすでに亡くなっていることを白状する。

私は、夫人と同じ毒物なら、蘇生の可能性があると考え、Roperと共に治療を施す。

結局、Dr. Ogilvieも回復する、そしてOgilvie夫人は真相を知らされないままいる。

最後まで誰も亡くならないので、安心して読める作品である。最後に翻訳の出来についてである。

冒頭に、HalifaxがTaylorの書物で神経毒を学んでいる部分がある。この部分は後にOgilvie夫人への診断を下す伏線となるのだが、中国語では、“研究神經病之原因”とあるだけで、十分ではない。また、HalifaxはSt. Saviour's病院でインターンを終えたばかりということになっているが、中国語では、“聖殺佛司醫學校”の卒業後としている*6。更に、HalifaxがJohn Rayに会うのは、St. Saviour's病院のB病棟(B WARD)なのだが、中国語では、“皮滑特病院”とし、「B WARD」を勘違いしている。

以上のように、ミスは冒頭に集中している。しかし、これ以外の大部分の翻訳はしっかりしており、よいと思う。

最後の方の一部分を掲げる。英語原文はJ. B. Lippincott Company影印本から引用する。中国語には標点符号を加える(以下同)。

“ Then - then, ” I said, with a sudden shout, which I could not repress, “ we'll have a try for it! ”

“ A try for what? Are you mad? ”

“ Why, Roper, don't you see? ” I exclaimed. “ Don't you see that if that woman's story is false, Ogilvie has nothing to die for? The drug he has taken is slow in its

effects. He may be only in a state of stupor. We saved his wife - we'll have a try for his recovery, too. ”

I ran from the room, and Roper, looking as if his senses had deserted him, followed me. We turned everyone else out of the dining-room and locked the door. I flung the cloth off the dead man's face, and, seizing a looking-glass, held it to his lips.

“ Thank God! ” I exclaimed, turning to the old doctor, and pointing to a faint dimness on its polished surface. (24頁)

(「それなら - それなら、」私はたまらず突然大声を上げた、「我々はあれをやってみましょう！」)

「何をやってみるのかね？ 気は確かかね？」

「Roper、どうしてわからないんですか？」私は叫んだ。「あの女の話が偽りなら、Ogilvieには死ぬ理由がないことがわからないんですか？ 彼が飲んだ薬はゆっくり効いてくるんです。恐らく彼は昏睡状態にいるだけでしょう。我々は彼の妻を助けたのだから、彼の手当てもやってみましょう。」

私は部屋を走り出た、Roperはまるで意識が自分から離れてしまったかのように、私についてきた。我々は他の全員を居間から追い出し、ドアに鍵をかけた。私は死者の顔の布をかなぐり捨て、鏡を握って、彼の口元にかざした。

「神に感謝します！」私は叫んで、先輩ドクターの方を向き、鏡の表面のかすかなくもりを示した。）

余一聽、不覺陡出大聲曰：“然則，然則，余等尚可一試。”路般驚曰：“試何事？汝瘋耶？”余呼曰：“何哉？路般，汝不見乎？汝不思此婦所言既偽，則鄂君可無庸死乎？彼之毒藥，性發甚緩，渠此時殆僅昏惘不省耳。余等既救鄂夫人，且更一試以拯鄂君也。”

余言已，即奔出此室，路般瞠目直視，若魂不附體，亦隨余出。余即屏退僕衆，緊閉餐室之門。取去死者覆面之衣，細加驗視，覺口鼻之間尚微有氣息，目光亦未全失。乃歡呼謂路般曰：“路君，路君，彼非尚有救乎？”(第5号26頁)

3. 《偵探小説 海底沉珠》の原作

《偵探小説 海底沉珠》は、《月月小説》第十(1907.11)、第十一(1907.12)、第十二(1908.1)、第十三(1908.2.8)、第十五(1908.4)、第十七(1908.6)、第十八(1908.7)号



《偵探小説 海底沉珠》

に掲載された。冒頭の書名の次に訳者名があるが、数種類ある。以下のとおり、「上海 新菴主人 譯」(10号)、「上海 知新室主人 譯」(11号)、「上海 知新主人 譯」(12号)、「知新室主周桂生」(13号)、「上海知新室主人 譯」(15,17号)、「上海 知新主人 譯」(18号)。

まず、訳者は周桂笙である。1873年生まれ、1936年没(一説には、1863年生まれ、1926年没)。上海の人。最初期の小説の翻訳家として活躍した。《月月小説》誌では、「総訳述」に招聘されている。

この《偵探小説 海底沉珠》の原作は、Robert Barr著『THE TRIUMPHS OF EUGENE VALMONT』(Appleton1906未見,Hurst and Blackett1906未見、底本不明のIndyPublish.com発行本(2007.1)を使用*)の「1. The Mystery of the Five Hundred Diamonds」(初出『The Saturday Evening Post』1904.6.4及1904.6.11未見)である。

該書は、8篇からなる短篇集で、主人公Eugene Valmontの事件簿である。

原作者について、Robert Barrは、1850年イギリス生まれ、1854年カナダに移住し、1876年からデトロイトで過ごし、1881年ロンドンに渡る。新聞記者、作家、編集者として活躍し、1912年没。

「The Mystery of the Five Hundred Diamonds」のあらすじを以下に紹介する。物語は主人公のフランス警察にいたValmontの一人称で語られる。

1893年、フランス政府は、The Chateau of Chaumontで発見された、豪華なダイヤモンドのネックレスを競売にかけた(このネックレスは、関わる人すべてに災いをもたらすものだった)。

Valmontは、総責任者としてその警備に当たる。競売は二人のアメリカ人が落札する。怪しいと見たValmontは競売の仕切り人に渡さないよう言うが、支払いの小切手にも問題がなかったので、ネックレスは落札者の手に渡る。一人がその箱を持って会場を出た後、もう一人が銃で会場の人たち(含Valmont)に5分間動かぬよう脅迫する。二人が会場から出た後、すぐにValmontも追いかけるが、失敗する(先に出た方は、外の仲間に箱を渡し、二人は別々の行動をとったため、尾行できなかった。銃を持った方は、目立たない小さな出入口を通ったため、誰にも気付かれずに去っていった)。

落札自体に違法性はないが、落札後の銃による脅迫行為・公務執行妨害があったので、Valmontは手を尽くして二人を捜す。

その後、箱を持った男を追った男を乗せたcabmanを見つけ、その二人の男が蒸気式ボートに乗ったことをつきとめる。そのボートを見つけ、船長と箱を持ったつけひげの男一人を捕まえる。つけひげの男はイギリスの探偵で、競売で事件があれば解決しようとパリに来ていた。彼の話では、箱を持った男を競売会場から尾行し、一緒にボートに乗ったが、その男は恐らく岸に逃げようとして水に落ち、箱は水に落ちる直前に奪い取ったと言う。

Valmontは引き続き、二人のアメリカ人、ボートから落ちた男を捜すが、全く手がかりはなかった。

それから3週間後、アメリカから落札者自身の手紙が届く。それによると、落札者は入手後すぐにネックレスをすり替え、偽物を箱に入れ、外にいた協力者に渡し、本物は郵便でアメリカに送っていた。自身には尾行もなく、アメリカに戻り、ネックレスを受け取った。また、イミテーションを作って、ヨーロッパに展示に行くつもりだと結んでいた。

数年後、落札者は二つのネックレスを持って、訪欧しようと船の予約をしたが、その船は大西洋に沈んでしまった。

Valmontがフランス警察を首になる原因となった事件であり、彼の独り相撲が細かく描写されていて、面白い作品である。続いて翻訳の出来についてである。

翻訳は、タイトルでいきなり結末を示している。その他、加筆がよく見られる。一か所挙げておく。

且説、中國販賣古玩骨董，大抵由掮客經手。其中弊竇，不堪指數。加之此種貨物，從無一定價值，故一般掮客，得以任意上下其手。然掮客亦不能獨擅其利，以門客家人之慾壑，最爲難填，而其弊乃愈不可問。故西國當衆拍賣之法，實爲至公無私之交易云。閑話休提。（第10号9頁）

（さて、中国では骨董を売る際、ほとんど仲買人の手を経ます。その害は数えられないほどです。更にこの種の品物には決まった価値がないので、普通は仲買人が任意で値を上下できます。しかし、仲買人も利益を独占できるわけではありません、取り巻きや家人の欲が最も深いものです、ですからその害はいよいよひどくなります。故にヨーロッパの公でのオークションという方法は、実に公正無私の売買なのです。閑話休題。）

この件は原作には全く見られない。余分に思える加筆が見られる以外は、物語を追ってうまく訳していると思う。両者の冒頭部を示す。

When I say I am called Valmont, the name will convey no impression to the reader, one way or another. My occupation is that of private detective in London, but if you ask any policeman in Paris who Valmont was he will likely be able to tell you, unless he is a recent recruit. If you ask him where Valmont is now, he may not know, yet I have a good deal to do with the Parisian police. (1頁)

（私がValmontだと言っても、その名は読者にとってどのみち何の印象ももたらさないだろう。私の仕事はロンドンでの私立探偵だが、もしあなたがパリにおいて、Valmontとは誰かを警官に尋ねたなら、その警官が新入りでなければ、あなたに答えてくれるだろう。もしあなたがValmontは今はどこにいるかを尋ねたなら、彼は知らないかもしれない、だが私はパリ警察とは深く関わりがあるのである。）

閱者諸君，我若驟然告訴你們說姓魏名孟德的便是我，那時恐怕你們個個都要茫然不解，沒有一人能記得我區區這個敝姓賤名的。原來我的執業乃是倫敦一個私家偵探，當時做偵探的姓名，和如今所說的姓名，是大不相同的，所以怪不得你們記不得了。但是

你要到了巴黎,無論你見了那一個,你若問他說魏孟德是怎麼樣人,他自然會告訴你的,或者他是一個近時的新進,容有不知,那也難說了。倘使你要進一層問他說魏孟德如今那裏去了,恐怕他們知道的也沒有幾個,其實我和巴黎的警察還有許多交涉呢。(第10号1頁)

翻訳にはやはり“當時做偵探的姓名,和如今所說的姓名,是大不相同的(当時警察にいた時の名は、今話している名とは全く違う)”などという「？」な加筆がある。

4. その他

『STORIES FROM THE DIARY OF A DOCTOR』・『THE TRIUMPHS OF EUGENE VALMONT』両者ともに短篇集であり、管見では他の雑誌に1篇ずつ翻訳されているのが見つかった。両篇とも『新編増補清末民初小説目録』(樽本照雄編, 齊魯書社2002.4)に原作が詳しく言及されていないので、ここに報告しておく。

まず『STORIES FROM THE DIARY OF A DOCTOR』の「IX. An Oak Coffin」(初出『The Strand Magazine』1894年3月)が、中国語題名《偵探小説 醫人奇遇記》・訳者「聶慎餘 / 瞿宣穎」で、《禮拜六》第91期(中華圖書館1916.2.26)に掲載されている。

『THE TRIUMPHS OF EUGENE VALMONT』の「3. The Clue of the Silver Spoons」(初出『The Saturday Evening Post』1904.8.27未見)が、中国語題名《賊習慣》・訳者「其訥」で、《小説大觀》第8集(1916.12)^{*8}に掲載されている。 罍

【注】

- 1) 《月月小説》は、龍溪書舎の影印『復刻版 月月小説 全8巻』(1977.9.30)を使用した。以下同。第五号については、発行年月日の記載がないので、『新編増補清末民初小説目録』(樽本照雄編, 齊魯書社2002.4)を引用した。
- 2) 樽本照雄「「新繁華夢」の老上海は吳趸人か」(初出『清末小説から』第22号1991.7.1、後に加筆され、同『清末小説探索』(法律文化社1998.9.20)所収、ここでは後者を使用)によると、「陳死我」「老上海」の筆名もあり、他にも翻訳作品がある。なお、《満麗女郎》も翻訳作品と見ている。
- 3) 『The Strand Magazine』は、本の友社の影印(1998.5.10)を使用した。以下同。余談であるが、雑誌掲載時の評判について、押川曠「ガス燈下に誕生した名

探偵たち」(『名探偵読本5 シャーロック・ホームズのライヴァルたち』パシフィカ1979.4.6)34頁で、「今日まったく忘れ去られたこの医学ミステリは評判はあまりかんばんしかなかった……」と述べられているが、押川曠「解説」(『シャーロック・ホームズのライヴァルたち』早川書房1983.6.30/2000.9.15二刷)373頁では、「このシリーズは、ストランド誌に連載中はドイルのホームズ譚と人気を二分していた……」とあり、同じ“押川曠”の書いたものなのに、全く矛盾している。

- 4) この「海立福」を『中国科学幻想文学館(上)』(武田雅哉/林久之著,(上)は武田雅哉執筆,大修館書店2001.12.1)72頁では、「フィリップ」としているが誤りである(同書「上巻年表」240頁も同)。また、該書はこの『新再生縁』を「SF的作品」としている(72頁)が、Halifax自身の体験を小説化していると思われるので、“SF”と見るのは疑問を感じる。
- 5) 『British Children's Writers, 1880-1914』(Dictionary of Literary Biography volume141)(Laura M. Zaidman編,A Bruccoli Clark Layman Book/Gale Research Inc.1994)の「L. T. Meade」(Mavis Reimer執筆)186-198頁に基づく。本名については、1879年に Alfred Toulmin Smithと結婚したので、「Smith」を付ける紹介もある。生年については、1879年とするもの(『世界幻想作家事典』(荒俣宏,国書刊行会1979.9.20)261頁)、1854年とするもの(前掲押川曠「解説」372頁)がある。
- 6) 誤りではないのだが、「Saviour's」(救世主)を“殺佛司”とするのは、漢字の意味から見ていただけない。
- 7) この単行本は、出版説明もなく、ただ作品だけを収め、“APPENDIX”としてホームズ・パロディを2篇収録する。見た感じ、インターネット上で公開されている無料のテキストをそのまま印刷しただけという印象を受ける。
- 8) 《小説大観》第8集実物は未見。《清末民初小説書系・偵探巻》(于潤琦主編,中国文聯出版公司1997.7.20)所収に基づく。

【参考文献・ホームページ(HP)】

梁淑安主編《中国文学家大辞典 近代巻》中華書局1997.2

Alison Janice McNabb Cox 「Robert Barr」『British Mystery Writers, 1860-1919』(Dictionary of Literary Biography volume70)(Bernard Benstock and Thomas F. Staley編, A Bruccoli Clark Layman Book/Gale Research Company 1988)の一項目

John Parr 「Robert Barr」『Canadian Writers, 1890-1920』(Dictionary of Literary Biography volume92)(W. H. New編,A Brucoli Clark Layman Book/Gale Research Inc.1990)の一項目

中島利郎「吳趸人と『月月小説』 - 出版事項・出版広告の語る『月月小説』」初出『啞』第20号1985.3.10、後に同『晚清小説研叢』(汲古書院1997.7.30)所収 William G. Contento 管理HP「The FictionMags Index」

<http://www.philsp.com/homeville/FMI/Ostart.htm> (2007年6月16日確認)

(わたなべ ひろし)

『清末小説から』第86号 2007.7.1

林訳イブセン冤罪事件.....樽本照雄
無中生有的最早林訳《葛利佛利葛》
.....馬 泰来
ビーストンの謎渡辺浩司
“ 夢湘先生 ” 点滴武 禧
晚清小説作者掃描 (拾壹) ...武 禧

『清末小説から』第87号 2007.10.1

魯迅による林紓冤罪事件.....樽本照雄
《亞森羅蘋之勁敵》と《竊鑄案》の
原作渡辺浩司
近代翻譯文學家陳鴻璧女士生平考
.....李 勇
晚清小説作者掃描 (拾貳) ...武 禧